

WTO農業非公式特別会合の結果概要

平成 19 年 5 月
農 林 水 産 省

I. 日時・場所

5月7日(月) 於:スイス・ジュネーブ

II. 我が国からの出席者

吉村国際部長、藤崎寿府代大使 ほか

III. 結果概要

4月30日に発出されたファルコナー農業交渉議長ペーパーについて議論。

1. 議論の概要

- (1) 各国ともマルチのプロセスを歓迎する旨表明。
- (2) 具体的な内容については、
 - ① 先進国からは、それぞれの立場から、三分野間の議論の重心や具体的な記述ではバランスが取れていない旨の発言があった。例えば、我が国、G10 及び EU からは、関税削減率や重要品目の数など市場アクセスの重力の中心のとらえ方が適切でないこと、市場アクセスと国内支持のバランスがとれていないいうことを問題とし、他方、米国は、市場アクセスこそ交渉の鍵であり野心の水準は高いものとすべきと主張。
 - ② 途上国からは、主に、先進国の市場アクセス、国内支持が不十分であるのに対し、途上国の市場アクセス、特に関税削減フォーミュラの境界やSPについて途上国の立場が反映されていないことについての不満が表明された。
- (3) この他、例えば、米国は国内支持、インドは特別品目(SP)、豪州は輸出国貿易などについて、各国とも、それぞれ自国にとって問題と考えられる論点を中心に発言。

2. ファルコナー議長のとりのまとめ(主な発言内容)

- (1) 総論として、全ての加盟国に否定されたということは均等に加盟国にとって痛いところを突いたことになる旨発言。
- (2) 国内支持については、各国から不明確との指摘が多かった旨述べるとともに、米国の全体削減の幅は非常に低い100億ドル台から180億ドルで、中間は150億ドルであると発言。
- (3) 市場アクセスについては輸出国・輸入国双方からバランスを逸しているとの指摘があり、平均関税削減率50%というのとは外れていないと発言。
- (4) 来週までにペーパー第2弾を発出し、21日の週以降大使級又は首席交渉官級の会合で議論を行っていききたい旨発言。